



東海の地に躍動

全国高等学校総合体育大会が8月に東海地区4県で行われました。本校から熊本県代表として出場した陸上部とソフトボール部は東海の地で堂々とした試合を展開してくれました。陸上部は総勢17名で全国の強豪選手に挑みました。特に3年生の村上静和選手は、400Hで自己ベストを更新し準決勝まで進みました。惜しくも10番目のタイムで決勝進出はなりませんでしたが、見事な走りでした。この種目に全国でエントリーした選手は、2000人を超えています。その中での順位です。素晴らしい記録だと思います。また、

1600mリレーも準決勝まで進みましたが、こちらも惜しくも敗退しました。しかし、全国の舞台で大きな足跡を残したと思います。



ソフトボール部は、1回戦で広島県の清水ヶ丘高校と対戦しました。こちらも中国地区チャンピオンの強豪校でした。4回まで息づまる投手戦でしたが、5回2アウトから失点し、0対1で惜しくも敗れました。チャンスはありましたが、相手投手の好投が光り、散発3安打に抑えられてしまいました。

みんなで声をかけ1600mリレーに臨む

高校部活の思い出第7回

木村美里先生 (済々黌高校バスケットボール部)

私は小学生からバスケットボールを始めました。高校時代の3年間もバスケ部に所属していました。ポジションはガードです。熊商の体育館に練習試合に来ることもありました。私のチームは全体的に身長が高くなかったのですが、監督の先生は“小柄でもできるバスケ”をととても熱心に教えてくださいました。最初に決めたベスト4に入るという目標は達成できませんでしたが、最後の総体の時には確実に



チームが強くなっていたと思います。毎日の練習の思い出といえば、練習の一番最初にするランニングです。私たちはランニングの時、500mLのペットボトルに水を入れたものを両手に持って走りました。「ランニング」というメニューですが、スピードはダッシュです。私たちはみんな自分のペットボトルのことをいつからか「相棒」と呼びました。他の学校で練習試合する日も公式戦の日も、どこにでも相棒を連れていきました。ランニングが一番きついメニューだったと思います。高校時代を振り返ると、課外や部活、受験などきつい時もありましたが、毎日楽しく乗り越えられたのは、一緒に頑張った仲間や応援してくれた家族のおかげだと感じます。高校3年間の全力で過ごした日々が人生の宝物になります。3年間しかない高校生活、みなさんたくさんの経験をしてどんどんパワーアップしてください！